

インド (ISLIA)

協会名：インド手話通訳者協会－ISLIA

報告者：モニカ・プンジャビ・ベルマ

Eメール：infoislia@gmail.com

1. 手話通訳者の現状

- ・ インドでは手話通訳者は新しい概念である。現在では様々なレベル（大学以外）での養成プログラムの受講が可能であり、認定と監視を行う政府機関からも承認を得ている。この養成プログラムは政府が作成したにもかかわらず、通訳者のための雇用創出策はとられていない。政府は今後の雇用の見通しを立てる決定のために、ろう者に対する通訳者の必要性についてのレポートの作成を要請している。これはインドの発展に対するよい兆候を示しており、私たちのロビー活動や政府機関との協働の結果である。
- ・ インドリハビリテーション評議会に認定された通訳指導者となるためのプログラムが提案されている。インドリハビリテーション評議会（RCI）－政府組織が全ての養成プログラムを規制、監督している。

2. ろう社会の現状

- ・ 都市圏のろうコミュニティは（少数だが）大きな進展を果たした。数名のインド人ろう者が国際有リーダープログラムに参加しその国際経験から得たものをインド国内、特にろう青年の間で広めている。ろう青年は、様々なろうコミュニティの発展に接し、ろう者の権利を学び、ろう者のアイデンティティ、ろう者の自覚、ろう教育での手話の使用を知り、最近では日々実力をつけてきている。
- ・ 農村部のろうコミュニティは現在でも認識されず、未就学である。
- ・ 最近では、ろう者のための応用手話研究の大学の講義において、有能な未来の手話指導者や研究者の養成をしている。

3. 国内の手話通訳コミュニティの今後の2大課題

- ・ インド手話通訳者協会（ISLIA）を創設した。通訳業の必要性と重要性から、全国大会の開催、ろう手話指導者と聴者手話通訳者による実演を含めた養成講座の開催、一般参加者に対するメディア使用による指導、全インドろう者連盟からの代表者に対する指導を行った。

- ・ 現在インドには多数のろう者がいるにもかかわらず、専門的手話通訳サービスを依頼する組織がほとんどない。しかし、報酬にかかわる問題は依然として課題になっている。

4. 国内の手話通訳コミュニティの主要な2大課題

- ・ 手話通訳が専門職であり、全ての通訳者が十分な報酬を得ることができるような認識を得て、専門職として仕事に就くこと。資格者は専門職としての通訳の選択に興味を示さなくなる。
- ・ 様々な通訳状況に対応できるようになるための、さらなる集中養成課程を開くこと。

5. 今後の2-4年間のWASLIに貢献できること

インドの通訳者の養成、身分、機会などの改善に関するよりよいニュース。

ISLIA としては、手話通訳業の周知と認知への働きかけを進めるためにインドでの WASLI 地域会議、WASLI 大会、WASLI 養成講座等の WASLI の名を冠した活動の主催をお願いしたい。

